

## 訪問介護における新たな実践

－いつでも安心したサービス提供のために－

社会福祉法人奉優会 等々力の家訪問介護ステーション

長島 正明、杉原 知久磨、古屋 敬子

(感染症対策 新型コロナウイルス感染症 新しい生活様式)

### 1. 目的

2019年12月より爆発的に感染拡大した新型コロナウイルス感染症は、利用者の生活様式の変更、訪問介護サービス対応を変更する必要性、それに伴う様々な生活環境への変更が必要となった。そのような状況下、訪問介護で実践した新たな取組みと、実際に行った感染者への対応をまとめ、ニューノーマルな取組みについて、新たな知見を得る事を目的とした。



### 2. 実践内容

『新型コロナウイルス感染症』に対応するため、事業部方針に基づき以下の取組みを行った。

#### (1) 新型コロナウイルス感染症への対応準備

- ①毎回の検温開始、②問診表とマニュアル作成、③職員研修開催方法の変更、④必要物品準備、⑤防護服対応

#### (2) 対応に応じた取組み

- ①検温記録用に訪問介護記録書の書式を変更し、毎回サービス時の記録を残した。
- ②問診表は医療機関で使用している表を参照し作成、訪問介護に必要な項目を訪問時に確認した。また、新しい感染症マニュアルを作成しそれに応じた対応を行う。
- ③職員研修については、三密にならない動画での研修受講に変更した。
- ④防護服等の使用物品は、事業所で一回分ずつセットしたものを訪問職員に配布した。
- ⑤昨年ガウンテクニックの研修を実施し、令和3年1月からすべてのサービスに防護服を着用したサービスへ変更した。

### 防護服対応

**着用時の注意**

- ・出発前に持参物品に不備がないか確認
- ・感染症セットに穴あきがないか確認

**着用手順**

- ・入室前にグローブ1枚目着用
- ・玄関にゴミ袋を敷き【清潔エリア】を確保し物品を準備
- ・防護服、ヘアキャップ着用
- ・清潔エリア上でシューズカバー着用
- ・グローブ2枚目を着用
- ・フェイスシールド着用し完成

**脱衣時の注意**

- ・感染度が高い順着から脱ぐ
- ・自分の体に触れないようにする
- ・動作は焦らずゆっくり行う
- ・振り払わない(特に防護服)
- ・破棄用の袋に入れる際もゆっくりと行う
- ・二重の袋に入れ使用宅で処分
- ・退室後の手指消毒

### 職員研修について【動画研修】

**◎動画研修**

- ・コロナ禍における『三密』回避した研修
- ・いつでも研修を受講可能
- ・YouTube動画のため何度でも視聴可能

**◎訪問介護専門誌『へるぼる』に掲載**

- ・特集『コロナ下での研修』に掲載
- ・防護服対応についても掲載

集団研修から個別研修へ

訪問介護専門誌への取材・掲載

※③については世界文化社別冊家庭画報「へるぼる」7・8月号掲載。

### (3) 新型コロナウイルス感染症、陽性者への対応

防護服対応、対応職員の他職員との非接触性の確保、サービス提供後の消毒および、帰宅後すぐのシャワー浴と着替えを行いながらサービスを提供した。

### (4) 等々力地区訪問介護連絡会の企画・主催

地域への感染症対策の共有を行う。

## 3. 結果

昨年より新型コロナウイルス感染症対応の為に様々な準備をした。非感染者への対応を含めた全ての利用者に対して防護服を着用する事で、利用者そして職員の非感染を確保し、新型コロナウイルス感染症の陽性者への対応も実施したが、事前の準備と正しい防護服の着用など適切な対応を行う事で、感染しない陽性者対応を実現した。また等々力地区の訪問介護連絡会にて地域での情報共有及び、標準化が図れるように取り組んでいく事とした。

## 4. 考察と今後の課題

新型コロナウイルス感染症陽性者への対応を行い、実際にサービスに入る事で得られた経験から、必要な対応を理解した。しかし今回の対応が最善ではなく、必要な状況に応じた対応できた事と認識し、今後必要となる新たな対応に備え、等々力地区訪問介護連絡会を今年9月に企画・主催。これからもより良いサービスを追求しながら感染症対応の検証を続け、利用者やご家族、そして職員や地域の同業者者にとっても安全なサービスの提供を続けていく事が必要と考える。

### <助言者コメント>

瓜生 律子（世田谷区福祉人材育成・研修センター長）

新型コロナウイルス感染症拡大により、私たちの今までの生活様式は一変しました。そのような中、事業所の皆様は、利用者の方々のお生活を守るため、サービス提供を継続されましたことは、プロ意識と責任感を感じます。感染症に「うつらない、そして、うつさない」ための取り組みは、大変重要で事業所内だけでなく、他の事業所においても参考になるものと思います。防護服等セットの内容は、「防護服、マスク、グローブ（L、M）、ヘアキャップ、シューズカバー、ゴミ袋」で、陽性者の訪問時には「ひざ下丈まであるフットカバー」を加えて、露出面を更に少なくしたとのことでした。そして、着脱のガウンテクニックの研修を実施し、すべての訪問に防護服で対応された「うつらない、うつさない」取り組みは、感染症の蔓延で不安な中、少しでも安心して業務に従事できたのではないかと思います。

費用は1セット約110円で、事業の消耗品として全額事業所負担、一部、補助金や区からの支給品を使用したとのことでした。また、感染症のリスクから退職する職員はいなかったというのは、不安な中でも丁寧な職場の統一した対応策が功を奏したのだと思います。等々力地区の訪問介護連絡会でも情報共有がさらに進められるよう、参加事業所を増やしていただければと思います。

大変お忙しい中、発表をいただきありがとうございました。今後とも大変な状況は続くと思いますが、予防策に取組み、従事者と区民の生活と健康を守るため引き続きよろしくお願いいたします。